

希望の丘



気仙沼市立九条小学校
校長室だより
令和6年3月8日
NO.11
校長 白倉 彩枝子



「ありがとう」の心を育む

校長としての初赴任先は、丸森町立耕野小学校です。

当時、全校児童は7名。その内2名は、東京からの山村留学生でした。給食は、全校児童と教職員が大きなテーブルを囲んで一緒に食べます。その様子は、大家族のようでした。校長室からは青々とした竹林が見えます。耕野の名産はタケノコです。春になると、全校児童で竹林に行き、夢中になってタケノコ掘りをしました。私のタケノコ掘りの先生は子供たちです。山村留学生の子供たちも、2、3年すると、タケノコ掘り名人に成長します。タケノコだけでなく、竹林の風景もよい思い出です。空にまっすぐに伸びる姿はもちろん、風が吹いても雪が積もっても、折れることのないしなやかな姿に、何度励まされたことが…。竹がしなやかなのは、竹に「節」があるからだと言われています。

さて、令和5年度も残りわずかとなりました。子供たちはこの一年の学校生活を振り返り、「できるようになったこと」や「成長したこと」を確かめながら、卒業・修了に向けての準備をしています。そして、振り返る時間の中で、たくさんの人との出会いや関わりに気づき、「ありがとう」の心を育てています。

先週、「6年生を送る会」が行われました。6年生は、学校行事や児童会活動でいつも下学年をリードしまとめてくれました。特に、「杉の子チャレンジ祭り」では、下学年が楽しめるように、お店の内容を工夫したり親切に対応したりと、一生懸命に取り組みました。そんな6年生の姿をしっかりと見ていた下学年は、6年生に感謝の気持ちを込めて、歌やダンス、呼び掛け、寸劇等々を発表しました。6年生からは、これまでの協力に対し感謝の気持ちを込めて、合奏を発表しました。それぞれの学年の「ありがとう」の心が体育館いっぱいに広がって、とても心温まる「6年生を送る会」になりました。

また、学校では、友達や先生だけでなく、いろいろな方がいらして子供達に関わってくださっています。例えば、月1回「読み聞かせ」のボランティア活動をしている「おはなしほっとけーき」の皆さん。今年度最後の活動後、1・2・3年生の子供たちが、お礼の手紙を送りました。ほっとけーきの方が、お礼の手紙を読んでいると、「あっ、私が読んだ本の感想を書いている。こんなに書いてくれるなんて本当にうれしいなあ。」と言いながら涙をぬぐっていました。子供たちの「ありがとう」には、人を感動させるパワーがあります。



竹は、「節」があるからしなやかにたくましく成長します。子供たちも今、大切な心の「節」を育てています。よりしなやかに、たくましく成長するために、自分の成長を応援してくれた人々への「ありがとう」の心を育む時間は、とても大切な時間です。友達に「ありがとう！」家族に「ありがとう！」地域の方に「ありがとう！」先生に「ありがとう！」そして、自分に関わり応援して下さった方々に「ありがとう！」

6年生は、あと一週間の小学校生活になりました。竹の「節」は一日で大きく成長します。体調管理をしっかりして元気に登校し、風が吹いても雪が積もっても、折れることのない心の「節」を育てていきましょう。春は、もうすぐそこまで来ています。